

看護職における地震災害時の避難所活動に関する文献検討～ヘンダーソンの14項目を活用した分析～

高井夏海¹⁾、宇田優子²⁾

- 1) 新潟医療福祉大学 看護学科 4年
- 2) 新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】我が国では2011年3月に発生した東日本大震災をはじめ、地震災害が多発し、今後十数年以内に東海地震や首都直下型地震等の大災害の発生も予測されている。災害が発生し避難を必要とする場合は避難所が設置される。避難所では、看護師や保健師、助産師などの看護職が、避難者の健康維持等の支援を行っている。看護職者の避難所活動についての報告は今までに数多くされている。

本研究は、今までの地震災害により設置された避難所での看護職の活動内容を文献から明らかにすることと、災害看護の今後の課題を明らかにすることである。

【方法】2016年6月に文献検索サービスの医中誌Webにおいて、「地震」「避難所」「看護師」「活動」のキーワードと、「避難所」「看護活動」のキーワードでそれぞれ文献検索を行い、そのうち5件の文献を分析対象とした。その中に記載されている看護職の避難所活動内容を、ヘンダーソン⁶⁾の14項目(以下Hの14項目と記す)を用いて分析した。

【結果及び考察】取り上げた5つの文献から抽出された避難所での看護職の活動内容を表にまとめた(表1)。文献検討を行った結果、災害の発生時期や季節によって注意すべき疾患や感染症は異なってくるため、季節に応じた対応をしていかなければならないことがわかった。また、取り上げた全ての論文でHの14項目のうちの「信仰」「生産・活動」にあたる活動内容の記載はみられなかった。現代の日本は様々な国の人々が住んでいることから、災害の急性期・亜急性期であっても、信仰活動を必要としている人がいるかもしれないということを踏まえ、今後そのような活動にも配慮が必要である。「生産・活動」は、被災者が「役割」をもって避難所生活を送ることで、健康を保持し、復興に向けた再起につながるのではないかと考える。Hの14項目以外に、全ての論文に多職種連携に関する記載があり、多職種や他機関との連携の必要性が示唆された。

【結論】Hの14項目のうち「信仰」「生産活動」についての活動はなかった。Hの14項目になかった「連携」が追加された状況であった。

表1:活動内容～ヘンダーソンの14項目を活用して～

項目	文献1)	文献2)	文献3)	文献4)	文献5)
呼吸			咳嗽		
飲食		食生活指導	飲水促進		
排泄		尿カテ交換			
姿勢 保持	ラジオ体操 の実行				運動実施
睡眠 休息	報道関係者への対応				
衣類		保温			
体温調節		衣類選択による保温	扇風機の風の対応		
清潔	手洗い含嗽	ホットタオルの手配			
環境の危機	診察介助、内服薬の手配、血圧測定	インフルエンザ対策、健康状態把握	衛生環境の整備、血圧測定、	バイタル測定	集団感染予防、健康状態把握、
意思	心のケア		健康相談	健康相談	心のケア
レク	遊び場提供				
学習	体を動かす必要性説明	受診指導、保健指導	食中毒知識の提供	医療機関の情報提供	薬・手指消毒方法指導
連携	情報共有	広報作成	情報伝達	情報提供	情報交換

【文献】

- 1) 野村純子、瀧澤寿美子、小林由加：新潟県中越沖地震災害救護における看護師の保健活動、日本集団災害医学会誌、14(2) : 233-236, 2009.
- 2) 小山田浩子、玉上麻美、青山実生子ら：阪神・淡路大震災後の被災地における看護ボランティア活動の可能性と提言—避難所の看護ボランティア活動からー、日本災害看護学会誌、5(2) : 11-20, 2003.
- 3) 西上あゆみ、渡邊智恵、神崎初美：新潟県中越沖地震における避難所看護活動－夏期の避難所の課題と看護の役割－、日本集団災害医学会誌、14(2) : 227-232, 2009.
- 4) 太田晴美、中村恵子：東日本大震災活動報告－JMATと地域保健医療機関へ「つなぐ」支援活動－、日本集団災害医学会誌、17(1) : 273-280, 2012.
- 5) 安川揚子、中井夏子、田野英里香ら：東日本大震災の被災地における看護師の医療支援活動報告、札幌保健科学雑誌、1 : 79-83, 2012.
- 6) ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの 新装版 湯檍ます・小玉香津子訳、日本看護協会出版会、1969/2014.